

第40号

奈良 国立博物館 だより

平成14年 1・2・3月



特別陳列

大和の神々と美術

たむけやまはちまんぐう てがいえ
手向山八幡宮と手掻会

東新館 1月4日(金)～2月3日(日)

特別陳列

お水取り

西新館 2月19日(火)～3月17日(日)

平常展

仏教美術の名品

本館 1月4日(金)～2月3日(日)、
2月8日(金)～4月14日(日)

2月5日(火)～7日(木)は臨時休館

西新館 1月4日(金)～4月7日(日)

【写真解説】

重要文化財 神輿(鳳輦) (手向山八幡宮)

神輿は、御旅所などに渡御する神幸の際に、神霊を一時的にお移しするための輿である。手向山八幡宮では、三殿の祭神を鎮めるために3基の神輿が伝えられており、本品は応神天皇を奉祭する中殿のものに当たる。屋根の上には金銅製の鳳凰がはばたき、輿の周囲は錦や神鏡で荘厳する。

特別陳列

大和の神々と美術

手向山八幡宮と手搔会

東新館 1月4日(金)～2月3日(日)

手向山八幡宮は、かつて東大寺八幡宮、南都八幡宮とも呼ばれ、東大寺三月堂の南、手向山を背景に鎮座しています。由来は、東大寺の大仏鑄造の際、その守護神として現在の九州大分県の宇佐より八幡神かんじょうを勧請（来るようにと請い願うこと）したことに始まります。

当社に伝来する祭礼「手搔会」は、転害会、礪礎会とも記し、八幡神を宇佐から勧請した際の行列の様子を再現したものと伝えられます。この祭礼では、東大寺転害門を御旅所として神供・祭式が行われ、行列の途中、田楽や舞楽を奏したといわれます。南都で最古式の盛儀とされた手搔会も、明治時代の神仏分離の余波を受けて次第にその規模が縮小され、今日では本殿および転害門しんがいもんにおいて祭式が行われるのみとなっています。

当社に伝存する神輿や唐鞍をはじめ、手搔会に関連する絵画や工芸の数々を通じて、かつては大和一の祭礼といわれた盛大な祭式と行列を誇った手搔会の歴史と美術をご紹介します。



手向山八幡宮 手搔会

特別陳列

お水取り 西新館 2月19日(火)～3月17日(日)

奈良に春を呼ぶ行事として名高い「お水取り」の時期に合わせ、お水取りに関連する美術品などを展示します。また本年は、大宿所おおどくしよの様子なども再現する予定です。

平常展

仏教美術の名品

本館 1月4日(金)～2月3日(日)、2月8日(金)～4月14日(日)

閉館：2月5日(火)～7日(木)

西新館 1月4日(金)～4月7日(日)

本館では、2月3日までは仏教彫刻を幅広く展示し、2月5～7日は閉館とさせていただきますが、8日からは東大寺関連品を中心に彫刻・考古の諸作品を陳列します。西新館では、仏教美術の名品をジャンル別に展示します。2月3日までは絵画・書跡・工芸・考古、2月5日以降は絵画・書跡・工芸の名品について随時展示替えを行いながら展示します。また各分野では、随時、特集展示も行っています。



◎木造持国天立像(東大寺)

<特別展予告>

大仏開眼一二五〇年 東大寺のすべて 東西新館・本館 4月20日(土)～7月7日(日)

天平の法灯を今に伝える奈良・東大寺では、平成14年(2002年)に本尊盧舍那大仏が開眼されて1250年目を迎えます。これを記念し東大寺が所蔵する国宝や重要文化財などをはじめ、東大寺ゆかりの仏教美術の名品をこれまでにない規模で公開する展覧会を開催します。春の特別展に是非ご期待ください。

〈主な出展品〉◎塑造日光・月光菩薩立像、◎塑造四天王立像、◎不空罽索観音立像宝冠、◎銅造誕生釈迦仏立像及び灌仏盤、◎東大寺金堂鎮壇具、◎木造良弁僧正坐像、◎木造重源上人坐像、◎木造僧形八幡神坐像、◎絹本着色俱舎曼荼羅図、◎紙本着色華嚴五十五所絵巻、◎葡萄唐草文染革、◎花鳥彩絵油色箱、◎八角燈籠火袋扉、◎南大門仁王像像内納入品、◎東大寺文書(以上いずれも東大寺蔵)など200余件

重要文化財「旧奈良県物産陳列所」(現 仏教美術資料研究センター) 100周年

奈良国立博物館の東南に位置する仏教美術資料研究センターの建物は、奈良県物産陳列所として、明治33年(1900)に起工され、明治35年(1902)2月15日に完成したもので、本年(2002)の2月15日で、ちょうど百周年を迎えます。設計は建築史家、関野貞氏(1867～1935、工学博士)。洋風を加味した木造桧瓦葺で、全体のプランを宇治・平等院の鳳凰堂になぞらえ、奈良公園との景観の調和をはかった和風様式の建物です。物産陳列所は、奈良県商工陳列所、奈良県商工館と名称を変え、昭和26年(1951)には国に移管され、昭和53年(1978)3月まで奈良国立文化財研究所の庁舎として利用されました。昭和58年(1983)1月に重要文化財の指定を受け、同年4月に奈良国立博物館に所属替えされたのち、平成元年に仏教美術資料研究センターとして開館され、現在は下記のように仏教美術を中心とした図書資料、ならびに仏教美術情報の利用施設として公開されています。どうぞ、ご利用ください。

公開日 毎週水曜日・金曜日

(国民の祝日および12月26日～1月4日を除く)

公開時間 9時30分～16時30分

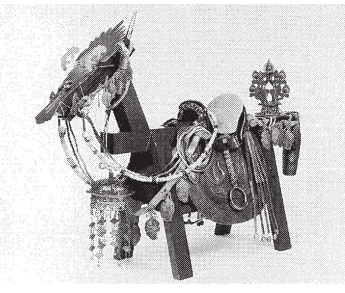
サービス内容 閲覧・複写・レファレンスサービス

問い合わせ先 TEL 0742-22-4470(閲覧室)



特別陳列「大和の神々と美術 手向山八幡宮と手搔会」 東新館

僧形八幡神像(神護寺)、八幡宮御神号、三社託宣(以上西笹鉾町)、◎神輿、◎唐鞍、◎黒漆塗四枚居木鞍、◎黒漆塗海松門文螺鈿鞍、献饌具(高坏・散米盆・住吉盆)、◎狛犬、◎獅子頭、◎王舞面、◎舞楽面 皇仁庭、◎舞楽面 胡徳楽、◎舞楽面 胡徳楽瓶子取、◎舞楽面 胡徳楽勸杯、◎舞楽面 散手、舞楽装束(胡蝶・迦陵頻残闕)、彩絵三鼓胴、朱漆塗鉾、竹箴、競馬太刀、翳、八幡宮神輿院宣、八幡宮祭礼転害会官符、八幡宮神輿図絵、八幡宮威儀御馬唐鞍図絵、転害会神饌図絵、東大寺八幡宮転害会田楽装束図絵、東大寺八幡宮転害会楽器図絵、御田植図巻、上司氏系図(以上手向山八幡宮)、転害門(模型)(当館)



◎唐鞍(手向山八幡宮)

特別出陳 本館	特別出陳 西新館
◎薬師如来立像（唐招提寺金堂）	◎薬師三尊像（薬師寺講堂）

平常展 「仏教美術の名品」 本館・西新館

【彫刻】<本館> 1/4～2/3 第1室 飛鳥～奈良時代の彫刻 ◎脱活乾漆・木造梵天立像、◎脱活乾漆・木造伝救脱菩薩立像(以上秋篠寺)、木心乾漆天部形坐像、塑造侍者坐像(以上当館)、◎木心乾漆阿閼如来坐像(西大寺)、◎脱活乾漆目捷連立像、◎脱活乾漆舍利弗立像、◎脱活乾漆緊那羅立像(以上興福寺)、◎木造西大門勸額(東大寺)、◎木造十一面観音立像(薬師寺)、◎銅造光背(二月堂光背)(東大寺)、◎銅造法華説相図(長谷寺)、◎木造菩薩立像(金竜寺)、◎銅造誕生釈迦仏立像(正眼寺)、銅造誕生釈迦仏立像、銅造誕生釈迦仏立像、銅造誕生釈迦仏立像、銅造誕生釈迦仏立像、銅造誕生釈迦仏立像(以上個人)

第2・3室 平安・鎌倉時代の彫刻 ◎木造阿弥陀如来立像(裸形阿弥陀)(浄土寺)、◎木造増長天立像(当館)、◎木造広目天立像(興福寺)、◎木造多聞天立像(当館)、◎木造行賀上人坐像(法相六祖像のうち)(興福寺)、◎木造弥勒菩薩坐像(薬師寺)、◎木造十一面観音立像(元興寺)、◎木造千手観音立像(妙法院)、◎木造薬師如来坐像(当館)、◎木造薬師如来立像(元興寺)、木造如来立像(当館)、◎木造吉祥天立像(法明寺)、◎木造十一面観音立像(薬師寺)、◎木造聖観音立像(観心寺)、◎木造千手観音立像(園城寺)、◎木造十一面観音立像(勝林寺)、◎木造十一面観音立像(地福寺)、◎木造観音菩薩立像(セゾン現代美術館)、木造菩薩立像(当館)

第4～6室 ガンダーラ・中国・朝鮮半島の彫刻 <ガンダーラ>石造如来立像、石造菩薩立像、ストゥッコ如来頭部、ストゥッコ如来坐像、ストゥッコ菩薩立像、ストゥッコアトラス像、石造貴婦人群像(以上個人)、石造仏伝図浮彫(当館)、<中国>銅造仏三尊飾板、銅造誕生釈迦仏立像(以上個人)、銅造二仏並坐像(当館)、銅造菩薩坐像、銅造力士立像、◎木造諸尊仏龕(以上個人)、方形独尊坐像博仏、方形阿弥陀三尊博仏、方形独尊博仏、小型独尊博仏(以上当館)、多宝塔博仏、石造如来頭部(雲岡)、石造菩薩頭部(犍臈)、石造如来頭部(天龍山)、石造仏五尊碑像、石造仏立像、石造仏浄土碑群像、◎石造三尊仏龕(以上個人)、◎石造三尊仏龕、◎石造十一面観音立像(以上当館)<朝鮮半島>銅造如来立像(光明寺)、銅造如来立像(当館)

第7～11室 日本彫刻の諸相 ◎木造観音菩薩立像(本山寺)、◎木造十一面観音立像(当館)、◎木造菩薩立像(細見美術財団)、◎木造弥勒仏坐像(東大寺)、銅造如来立像(当館)、◎銅造観音菩薩立像(金剛寺)、◎銅造観音菩薩立像(法隆寺)、◎銅造菩薩半跏像(東大寺)、銅造菩薩立像(興福院)、◎銅造薬師如来立像(般若寺)、銅造観音菩薩立像(仏像型)(個人)、◎銅造観音菩薩立像(観心寺)、銅造菩薩立像(伝白山出土)(当館)、◎木造舞楽面・散手、◎木造舞楽面・貴徳(以上東大寺)、◎木造舞楽面・新鳥蘇、◎木造舞楽面・納曾利、◎木造舞楽面・皇仁庭(以上春日大社)、◎木造行道面(浄土寺)、木造阿弥陀如来坐像、木造阿弥陀如来立像(以上当館)、木造阿弥陀如来坐像(金剛寺)、木造大日如来坐像(西城戸町)、◎木造増長天立像(称名寺)、◎木造増長天立像(法明寺)、木造阿弥陀如来及両脇侍像(峰定寺)、木造阿弥陀如来立像(個人)、木造弥勒菩薩立像(林小路町)、◎木造十二神将立像(辰・未)(室生寺)、木造愛染明王坐像、木造地藏菩薩立像(以上当館)、◎木造馬頭観音立像(浄瑠璃寺)、◎木造地藏菩薩立像(長命寺)、◎銅造蔵王権現立像(大峰山寺)、木造蔵王権現立像、木造伊豆山権現立像(以上当館)、◎木造大將軍神坐像(大將軍八神社)、木造大將軍神坐像(当館)、◎木造八幡三神坐像(薬師寺)、木造男女神像(当館)

第12・13室 1/4～2/3 特集展示<善円と快成>木造十一面観音立像、◎木造愛染明王坐像(以上当館)、◎木造釈迦如来坐像(東大寺)、◎木造地藏菩薩立像(春覚寺)、特集展示<動物たちの彫像>◎埴輪牛(田原本町教委)、埴輪犬(個人)、◎木造狛犬、◎木造獅子、木造獅子頭(以上当館)、木造獅子頭(東大寺)、木造龍頭、木造舞楽面・崑崙八仙(以上当館)、◎木造舞楽面・陵王(水室神社)、木造牛頭、銅造春日神鹿舍利厨子(以上当館)

2/8～4/14 第1・2室 特集展示<東大寺ゆかりの彫刻>◎銅造光背(二月堂光背)、◎木造多聞天立像、◎木造持国天立像、◎木造十二神将立像(以上東大寺)、◎木造愛染明王坐像(当館)、◎木造地藏菩薩立像(春覚寺)、◎木造阿弥陀如来坐像(東大寺)、◎木造阿弥陀如来立像(裸形阿弥陀)、◎木造重源上人坐像、◎木造行道面(以上浄土寺)、◎木造獅子頭、◎木造弥勒仏坐像、木造文殊菩薩騎獅像(以上東大寺)

【絵画】<西新館> 1/4～2/3 ◎釈迦如来像(持鉢釈迦)(西教寺)、◎阿弥陀聖衆来迎図(松尾寺)、◎一字金輪曼荼羅、◎普賢延命像(以上当館)、◎十二天像(日天・月天)(西大寺)、◎五百羅漢像(大徳寺)、◎辟邪絵(天刑星・鍾馗)(当館)、◎一遍聖絵(第6巻、第1・2段)(清浄光寺・歓喜光寺)、扇面画帖<三教図・富士山図他>(当館)、伊勢両宮曼荼羅(正暦寺)、◎金光明最勝王経金字宝塔曼荼羅(大長寿院)、◎法華経宝塔曼荼羅(立本寺)、◎扇面法華経(西教寺)、法華経曼荼羅(当館)

2/5～3/3 ◎仏涅槃図(達磨寺)、◎仏涅槃図(浄土寺)、◎仏涅槃図(陸信忠筆)(当館)、仏涅槃図(元興寺町)、◎十六羅漢像(8幅)(宝蔵寺)、◎地藏菩薩像(坐像)、◎虚空蔵菩薩像(以上当館)、◎文殊菩薩像(宝寿院)、◎白衣観音像(海燐贊)、◎辟邪絵(毘沙門天)(以上当館)、◎法然上人絵伝(第7巻、第5・6段、第30巻、第5段)(奥院)、藤原武智麻呂像(荣山寺)、多武峰曼荼羅(当館)、◎天台高僧像(龍樹)(一乗寺)、◎真言八祖像(金剛智)(神護寺)、◎善導大師像(知恩寺)、◎親鸞聖人像、◎明空法師像(以上当館)、◎興正菩薩像(新大仏寺)、聖徳太子絵伝(談山神社)、玄奘三蔵十六善神像(南明寺)

3/5～4/7 ◎十王像(陸信忠筆)(当館)、◎閻魔王図(長泉寺)、◎釈迦八相図(大福田寺)、◎仏涅槃図(長命寺)、◎十六羅漢像(8幅)(宝蔵寺)、◎二河白道図(当館)、弥勒来迎図(個人)、◎辟邪絵(神虫)、理趣経曼荼羅図像、不動儀軌、◎大仏頂曼荼羅(以上当館)、◎一字金輪曼荼羅(南法華寺)、◎法華曼荼羅(松尾寺)、千手観音二十八部衆像(当館)、◎十一面観音像(金心寺)、◎文殊菩薩像(宝寿院)、孔雀明王像(個人)、◎俱利伽羅竜剣二童子像・両界曼荼羅(当館)、◎十二天像(地天)(西大寺)

【書跡】<西新館>1/4～2/3 ◎福州温州台州求法目録、◎越州都督府過所・尚書省司門過所、◎円珍度縁并公驗、◎伝教大師略伝(以上園城寺)、◎造東大寺司請経牒、阿闍世王経(五月一日経)(以上当館)、別訳雑阿含経卷第十(五月十一日)(宝蔵寺)、般若心経(隅寺心経)(海龍王寺)、◎大毘盧遮那成仏神変加持経(吉備由利願経)(西大寺)、紙金銀交書金剛頂経瑜伽十八会指帰(中尊寺経)、紺紙金字大智度論卷第七十四(神護寺経)(以上当館)

2/5～3/3 ◎大般若経(長屋王願経)(瑞光寺)、大般若経卷第四百十六(施福寺)、大悲経(五月一日経)(正暦寺)、◎増一阿含経卷第三十(善光寺印経)(正暦寺)、◎金光明最勝王経(百済豊虫願経)(西大寺)、◎大般若経(魚養経)(薬師寺)、大方等大集経菩薩念仏三昧分卷第九(当館)、◎聖徳太子伝暦(本願寺)、雑筆集(当館)

3/5～4/7 弘法大師二十五箇条遺告(能満院)、悉曇字母积、◎弘福寺牒並大和国判、海龍王経、瑜伽師地論卷第八十九(舍人国足願経)(以上当館)、大般若経卷第四百七十一(談山神社)、大威徳陀羅尼経(法隆寺一切経)(当館)、◎紫紙金字法華経(乘法寺)、◎紫紙金字金光明最勝王経卷第二(後宇多天皇願経)(当館)、◎法華経(長谷寺)、大般若経卷第五百十七(東大寺八幡経)(当館)

【工芸】<西新館>◎金銅密教法具(厳島神社)、◎金銅独鈷鈴、◎金銅三鈷鈴(以上個人)、金銅五鈷鈴(当館)、◎金銅宝珠鈴(個人)、金銅塔鈴、金銅独鈷杵(以上当館)、金銅三鈷杵(個人)、金銅五鈷杵、金銅火舎、金剛盤、輪宝、羯磨、六器、◎金銅鰐口、◎梵鐘、梵鐘(以上当館)、◎鉦鼓(手向山八幡宮)

1/4～2/3 刺繍種字阿弥陀三尊像(当館)、◎金銅透彫舍利容器(西大寺)、◎金銅三角五輪塔形舍利容器(浄土寺)、金銅金亀舍利塔(長谷寺)、舍利厨子(福田寺)、◎金銅透彫華鬘(神照寺)、◎金銅透彫幡頭(中尊寺金色院)、子の日手辛鋤、子の日目利簪、金銀彩絵筭、洞簫、紫檀金銀絵書几、木面紫檀双六局、撥鍍菓子、◎金銅透彫華鬘、錦幡、磬架、孔雀文磬(以上当館)、黒漆塗蒔絵挾帙(薬師寺)、◎宝相華文如意、錫杖頭(以上当館)

2/5～3/3 刺繍種字阿弥陀三尊像(中宮寺)、伎楽装束(呉公)、黒作横刀(蔵手横刀)、金銀荘横刀、黒漆三合鞘刀子、白石火舎(以上当館)、金銀平脱皮箱(セゾン現代美術館)、特集展示<華鬘の彩>◎金銅種子華鬘、金銅尾長鳥文華鬘(以上当館)、◎金銅尾長鳥文華鬘(中尊寺)、◎牛皮華鬘(当館)、牛皮華鬘(峰定寺)、牛皮華鬘、木製彩色華鬘(以上当館)、◎木製彩色華鬘(靈山寺)

3/5～4/7 伎楽装束(迦樓羅)、新羅墨、天平筆、黒柿両面厨子、正倉院宝庫模造、黒漆二合鞘刀子、斑犀把烏犀鞘金銅荘刀子(以上当館)、特集展示<鏡に映された神の姿>◎十二尊鏡像(細見美術財団)、◎阿弥陀如来鏡像、蔵王権現鏡像、男神鏡像、男神対向鏡像、十一面観音懸仏、◎山王十社本地懸仏、◎熊野十二社権現懸仏(以上当館)

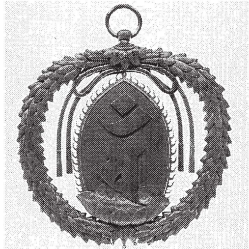
【考古】1/4～2/3<西新館>・2/8～4/14<本館> ◎鳳凰文埴(南法華寺)、方形三尊博仏(橘寺出土)(当館)、方形三尊博仏(川原寺裏山出土)(明日香村教育委員会)、方形三尊博仏(南法華寺出土)(南法華寺)、塑像(滋賀・雪野寺出土)(個人)、蓮花文鬼瓦(奈良・奥山久米寺出土)(京都国立博物館)、蓮花文鬼瓦(奈良・山村廃寺出土)(個人)、鬼瓦(伝奈良・中山瓦窯出土)(当館)、◎鬼瓦(奈良・大安寺出土)、鬼瓦(奈良・秋篠寺出土)(以上個人)、◎東大寺金堂鎮壇具(東大寺)、靈安寺塔跡出土鎮壇具、◎山代忌寸真作墓誌、行基墓誌残欠(以上当館)、◎青磁鉢(正暦寺)、金銅厨子形経筒、銅経筒(平治元年銘)(以上当館)、◎朝熊山経塚遺物<三重・経ヶ峯経塚出土>(金剛証寺)、和歌山・粉河経塚出土陶製外筒、伝和歌山・白浜経塚出土品(以上当館)、紙本朱書法華経<伝大分県出土>、紙本墨書法華経(和歌山・粉河経塚出土)(以上当館)、◎紙本墨書法華経<紀伊王子神社経塚出土>(比井王子神社)、◎銅板経<大分・長安寺経塚出土>(長安寺)、瓦経<福岡・飯盛山経塚出土>、青石経<愛媛・大日堂経塚出土>、泥塔経<鳥取・智積寺経塚出土>(以上当館)、◎線刻蔵王権現鏡像(金峯山寺)、経塚出土鏡、◎伝福岡県出土経筒(永久4年銘)・付如来立像、金銅宝幢形経筒、瑠璃鈕銅経筒(以上当館)

1/4～2/3<西新館> ◎石製九輪<奈良・山村廃寺出土>(門証寺)、◎栗原寺伏鉢(談山神社)、瓦塔<静岡・三ヶ日町出土>(当館)、◎藤原道長願経(奈良・金峯山経塚出土)(金峯神社)、伝愛媛県北条市出土陶製経筒(当館)

2/8～4/14<本館> 塑像(奈良・薬師寺出土)(薬師寺)、塑像(奈良・川原寺裏山出土)(明日香村教育委員会)、火頭形三尊博仏(伝奈良・橘寺出土)、山田寺出土博仏、夏見廃寺出土博仏、方形独尊坐像博仏、方形阿弥陀三尊博仏、方形独尊博仏、小型独尊博仏(以上当館)、多宝塔博仏(個人)、◎元興寺塔跡鎮壇具(元興寺)、白山古墳出土品、平瓶形骨蔵器、◎出雲荻杵古墓出土品(以上当館)、◎鍍銀経箱<奈良・金峯山経塚出土>、藤原師通願経<奈良・金峯山経塚出土>(以上金峯神社)、銅板経<奈良・金峯山経塚出土>、瓦経<京都・鳩ヶ峯経塚出土>、金銅水滴、銅合子(以上当館)



◎辟邪絵(毘沙門天)(部分)(当館)



◎金銅種子華鬘(当館)



◎青磁鉢(正暦寺)



正倉院展をみて

東京芸術大学名誉教授 中野 政樹

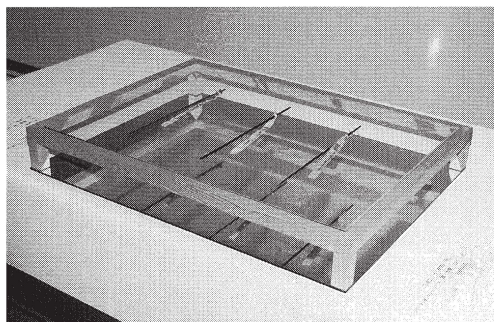
毎年秋には正倉院展を見に行くことにしている。

私が初めて正倉院宝物を拝観したのは東京皇室博物館であった。小学五年生の時で、母と一緒にでしたが、その印象は強く、以来、正倉院は私の美術史の原点でもあるといえる。

戦後は欠かさず拝観しているが、今回が53回、昔に比べて緊張感は薄れたが、会場が広くなった開放感がそうさせるのかもしれない。

年々観客が少なくなったといわれているが、今年は増えて、1日一万近くの人が押し寄せたという。蟻の行列のように連なる観客の多さに唯々驚くばかりである。

最近鑑賞しやすくなったが、観客が多くてやはり見づらい。しかし、それがまた、人を興奮させ、人を引き寄せる要因ともなっているといえよう。



乞巧奠に用いられた針(陳列風景)

ケース前に人が群がるので、自然と観客の会話が耳に入ってくる。特にご婦人方の会話は聞いていても面白い。螺鈿鏡の解説の一部を見て「復元と書いてあるからこれは本物ではないのよ」という。乞巧奠の長く大きい針を見ては「畳を縫うのんとちがうか」「大仏さんの針やね」というのは微笑ましい。また、八曲長杯を見て「家で使ってるオムライスの型と同じやね」というのには成程と思う。「どうやって作るんやろか」という会話にはこちらも入り込みたくなる。このように難しい展覧会には見られない開放的な雰囲気会場に醸し出されている。これ

が普段あまり美術に関心のない方々も大挙して集まってくる正倉院展の良さであろう。

今回は数多くの鈴が陳列されており、形姿も様々で、天平人が如何に鈴の音を楽しんでいたか想像させ、楽しかった。正倉院での調査研究の成果が示されているといえよう。

ただ、正倉院展では、ガラス鏡の上に宝物を展示していることが多い。底裏の銘をみせるのもよいが、ガラス鏡に投影されて形姿の美しさが損なわれ、却って宝物自体の存在感が失われることもあるように思われる。

オーディオガイドも聞いてみた。親切な解説は初めての人には良いガイドであろう。できれば天平の鈴音を聞かせて欲しかった。

目録は紙質の悪かった初期の小さな解説書に比べると雲泥の差である。正倉院展発展の推移がよく理解できる。今回の目録に宝物寸描が加えられたのはまことに良かった。新しい方向が見えてきたと思う。

正倉院展はこれからも続くであろう。天平の昔を身近に感じる正倉院展は奈良の秋とともにあってこそ一段と意義深い。見終わって博物館を遠く振り返り、いつも、来年の秋も出かけて来ようと思うのである。

(2001. 11. 記)



正倉院展中のエントランス付近



正倉院展の陳列室

◆公開講座

1月19日(土) 手搔会の起源と現在

手向山八幡宮権宮司

かみつかき のぶひろ
上司 延禮

13時30分から15時まで、講堂にて開催します。聴講は無料です。ただし定員は200名で、当日の先着順です。

◆ギャラリートーク

1月9日(水) 祭礼 手搔会について

研究員 伊東 哲夫

2月13日(水) 鬼瓦について

研究員 高橋 照彦

3月13日(水) 釈迦八相図について

学芸課長 梶谷 亮治

いずれも14時から、陳列室にて行います。入館者の聴講は自由です。

◆「親と子の文化財教室」受講者募集

第9回 1月12日(土) 人物・遺産でさぐる飛鳥時代の歴史

教育室長 宮田 康和

小学5・6年生と中学生、その保護者を対象にした教室です。今年度は『飛鳥時代の歴史と美術』をテーマに勉強しています。なお、来年度は『奈良時代の歴史と美術』の予定です。

○はがきに、「親と子の文化財教室参加申込」と記入の上、氏名・住所・郵便番号・学校名・学年・電話番号・同伴する保護者の氏名・参加を希望される月日を必ず記入して、〔〒630-8213 奈良市登大路町50 奈良国立博物館 教育室〕まで、お申し込みください。(お申し込みはFAXでも構いません。FAX0742-22-7221)

○参加費は無料です。定員は100名(先着順)。当館講堂において10時から12時まで行います。

◆ボランティアによる解説(ご案内)

○ボランティアによる解説を、開館日の10時~13時、13時30分~16時30分の時間帯に展示室で行っています。解説に要する時間は、入館者(個人・グループは問いません)のご希望に応じ、対応させていただきます。

○学校行事(修学旅行・校外学習等)や研修会等で入館される団体には、展示室での解説のほか、講堂や学習室においてコンピュータ画像を使って「ぶつぞう入門」(約30分)・「奈良の九社寺と仏像」(約50分)をテーマにボランティアがわかりやすく解説します。20名以上の団体の場合は、事前にご相談のうえ、ご予約をお願いします。ご予約・お問い合わせは教育室 宮田〔電話0742-22-7008 月~金曜日の9時~17時〕まで。

◆奈良国立博物館友の会カード

特 典 (登録者ご本人のみ)

奈良・東京・京都国立博物館の平常展を無料でご観覧いただけます(特別展・共催展等は各展1回限り)。また、当館のミュージアムショップで当館発行の展覧会目録(共催による展覧会目録を除く)を各1部、1割引きで購入できます(奈良国立博物館のみで有効)。

販売方法

奈良国立博物館新館の観覧券売場で随時販売します。その際、申込書等に必要事項を記入願います。開館日にはいつでも購入いただけます(販売時間は、閉館30分前までです)。

料 金

年間3,000円

通用期間

購入時から翌年同月の末日まで。

*お問い合わせ先 学芸課企画室 電話0742-23-5962(月~金曜日の9時から17時まで)

開館時間 9時30分から17時まで

1月13日(日)・2月3日(日)・3月12日(火)のみ19時まで

※いずれも入館は閉館の30分前まで

休 館 日 月曜日(ただし1月14日(月)・2月11日(月)は開館、1月15日(火)・2月12日(火)は休館)、
12月25日(火)~1月3日(木) なお、2月5日(火)~7日(木)は本館のみ臨時休館

観覧料金 毎週土曜日は、小・中学生無料。

1月4日(金)~1月14日(祝・月)は、内親王殿下の御誕生を祝し、小中高生無料。

特 別 陳 列 ・ 平 常 展		大 人	高・大生	小・中生
	一 般	420円	130円	70円
	団 体	210円	70円	40円

※団体は責任者が引率する20名以上

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒(80円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館の企画室にお申し込み下さい。

〒630-8213 奈良市登大路町50 TEL0742-22-7771 FAX0742-26-7218 テレホンサービス0742-22-3331

ホームページ(URL) <http://www.narahaku.go.jp/>

奈良国立博物館